

事業所における自己評価結果(公表) 【放課後等デイサービス】

公表:令和5年2月25日

事業所名:放課後等デイサービスマーガレット

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			室内活動では、机などを片付けたり、広く使えるように物の配置をかえたりして、活動内容や参加人数の状況などによってその都度工夫している。	利用児童に対し、スペースは確保されていると思われる。今後も継続して、活動状況に応じてその都度、安全面など考えながらスタッフ全員で考えて行動できるように努めていきたい。
	2 職員の配置数は適切であるか	○			人員配置基準等に沿って、日々の利用児童に対し、児童発達支援管理者が職員配置について管理している。	定員10名に対し、基準や加配加算等取得し、常時スタッフ5~6名が配置されている。今後も管理者を中心に、日々、基準や加算に基づき職員が配置されているか、他の職員も意識できるよう心がけていきたい。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	○			借家である為、借主に相談しながら利用児童を中心に考え、できる整備を行っている。また段差解消が難しい所はスタッフがその都度手添えを行うなど人為的に解消できるよう工夫している。	段差があることで訓練にはなるが、玄関の上がり権が特定の児童に対しては高いと感じる。手すり設置済だが、玄関(上がり権)に段差あり。一その都度スタッフが子どもに怪我が無いように予測を立てて声掛けやお手伝いを行っている。
業務改善	4 業務改善を進めるための、PDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○			職員全体で話し合う場を設け、適宜行っている。	定期的にかンファレンス時に職員間で話し合いの場を設けており、今後も職員全体が参加できるようにしていく。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			アンケート結果を常勤職員で集計することで、保護者様の意向をくみ取れるようにしている。	ガイドラインに沿ったアンケートを活用し、職員間でその評価の改善策の話し合いを設け、今後も業務改善につなげていく。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			マーガレットのホームページに掲載している。昨年度の方は、今年度の保護者様向け評価表の依頼を行う時に掲示できるようにしている。	今年度も自己評価の結果を公開予定である。開所して7年目であり、今までの自己評価がどのように変化していったかも深めていけるよう努めていきたい。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○				第三者委員の外部評価が行われるよう検討していきたい。
8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			毎年必ず年1回以上、常勤職員を主として資格取得や業務で必要なものや、医療的ケア児に関わる研修などが受けられるよう配慮されている。	シフト調整し、勤務として研修参加ができるよう配慮されている。また、参加職員以外も、研修報告書を通じて知識の情報共有を図っていくよう行っていく。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			様々な職種(看護師、保育士、児童指導員、理学療法士、作業療法士など)の専門的視点からアセスメントできるように職員全員で話し合いを行っている。	児童発達支援管理責任者を中心に職員全体で、根拠を説明できる放課後等デイサービス計画を今後も作成できるよう努めていきたい。
	10 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			鹿児島市に許可されたアセスメントツールを使用している。	標準化されたアセスメントツールの見直しも含めて使用していく。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			行事担当のスタッフを中心に、毎週職員全体で話し合っている。	今後も多職種の専門的視点を持って、活動を一緒に行うスタッフ全員が共通理解を図り、活動ができるようPDCAサイクルに沿って行っていく。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			安心安全にできるよう、また参加する児童に合わせて活動プログラムを考えている。	子どもが楽しんで取り組めるような活動プログラムを、保育士、機能訓練の職種の視点をもって行事担当を中心に日々アイデアを考えている。プログラムを固定し、理解を深めることも大切にしながら、職員でアイデアを出していきたい。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			日々、利用する児童個人と児童全体を考え、支援している。	個別支援計画をもとに、それぞれの子どもに合った課題を挙げ取り組んでいきたい。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせながら放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			日々の職員ミーティングで、ある程度活動内容を話し合い決定している。休日や長期休暇には集団活動と個別活動を組み合わせている。	手先の巧緻性を高めたり、苦手な宿題を取り組んだり個別に必要な支援と、UNOなどのアナログゲームといった集団活動と子どもによって必要な支援は異なるが、今後もそれぞれの目的を考えながら行っていく。
	15 支援開始前に職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			毎日利用児が来所する前後の申し送りを行い、役割分担の確認をしている。終了時に必ず振り返りを行い、次に活かせるようにしている。	職員が共通理解を図ることで、子どもが安全にかつ共通した支援が受けられるよう今後も行っていく。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			毎日行っている。振り返りの内容はスタッフ用の連絡帳に記載し非常勤のスタッフも必ず把握して勤務につけるようにしている。	必要情報事項や良かった点、今後の課題となる点、関わりの中で悩んだことなどを話しやすい場を作り、日々振り返りを行っている。今後も継続して行っていく。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			医療機関で看護記録の記入形式としてよく採用されているSOAPを用いている。	正しい記録を行い、他の職員が見てもわかりやすい記録を心がけていく。
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			個別支援計画に基づき、児童発達支援管理責任者が主となって、半年のモニタリングを欠かさず職員全員で行っている。また頻度としては少ないが、必要に応じて半年以外でもスタッフ全員で話し合った後、保護者様に計画の見直しを提案することもある。	なるべく職員全員で話し合えるようにし、さまざまな職種の専門的視点から判断できるよう努めていく。	
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせながら支援を行っているか	○			重要事項説明書にも記載されているが、月ごとに個人の目標を掲げて、個別、集団、機能訓練等活動内容を組み合わせながら支援している。	ガイドラインの内容を自分自身がうまく理解できていない。一新入社員には、ガイドラインを読み、日々の活動にどのように組み込まれているか一連の流れを理解できるように学ぶ機会を持てるようにしていきたい。	

	チェック項目	どちらともいえない		工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
		はい	いいえ		
関係機関や保護者との連携関係	20 学校と情報共有(年間計画・行事予定等)の協議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		医療的ケア児の時は、必ず看護師が担当者会議に参加できるようにしている。	事前に他の職員から日々の子どもの状況についての情報収集も行ったうえで、児童発達管理責任者が主となり参画している。今後も日々の子どもの状況を把握し、支援に活かせるよう心掛けていきたい。
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○		学校への送迎時を利用し、日々の情報共有を図っている。また学校によっては、より情報共有が必要な児童に対し、長期休み中に通常の送迎時以外での情報共有を行っている。	保護者の方、学校、当事業所とで共通した情報共有を適切に図ってきたい。
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	○		受診後は必ず、その結果を口頭でもらうか、受診結果等、内服指示表などのコピーをもらい、支援につなげている。	基本的に契約後利用開始前に、保護者の方を通じて、日々のケアの注意事項や緊急時の対応や連絡先などについて看護師が中心となり情報収集を行い体制を整えている。今後も定期的に変更などないかも含め、日々の支援を通して家族と連携を図っていく。
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○		年々、児童発達支援センターから学校に提出する移行支援シートの写しを頂けることが多くなってきている。	情報共有できているところとできていないところがある。一情報を頂く事で継続した支援に活かすことができるため、今後も保護者を通して相手方へ無理のない程度で、利用開始前の依頼を行ってきたい。
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○		個別支援計画書の最終評価を紙で保護者の方にお渡ししている。機会があれば、移行先の事業所に対し、電話や訪問など直接状況提供ができるように心がけている。	継続して行う支援の重要性を理解しながら、適宜、移行先との情報提供を今後も行っていきたい。
	25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			機会があれば研修など参加していきたい。
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○		コロナ感染拡大予防のため、自粛せざる負えない状況である。	コロナ感染拡大防止により活動が制限されており難しい。コロナ禍で以前参加していた子ども食堂などへの参加が難しい。コロナ禍のため、他事業所との交流を控えている。一今後子ども食堂に参加予定であり、近所の子ども連との交流の機会を作っていきたいと考えている。
	27 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	○		市役所からの案内を受け、毎年職員1名以上研修に参加している。	今後も研修を中心に積極的に参加していきたい。
保護者への説明責任等	28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		送迎時や、連絡帳、LINE等で日々の様子をなるべく情報共有できるよう心がけている。	日頃の情報共有を大切にしながら、関係を築いていきたい。
	29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○		コロナ感染予防のため、親子参加での研修の機会はまだまだないが、保護者様から育児の相談を頂いた時は、ペアレント・トレーニングの意識を持って取り組めるよう、研修を受けている。常に心掛けて言葉かけや傾聴できるようにしている。	コロナ禍で全体の実施は難しいが、相談があれば個別に支援を行っている。
	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		利用見学や利用契約、また児童発達管理責任者とのモニタリング時などの機会に、書面を用いて保護者の方に説明を行っている。	契約に基づいて利用開始となるため、必ず説明を行っている。
	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		送迎時や、連絡帳、電話、LINE等、様々な方法で受付しており、児童発達支援管理責任者を中心に、その相談に適した職員が対応できるようにしている。	日頃から相談がしやすい関係を築けるよう心がけていきたい。
	32 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		コロナのため、開催ができていないが今後、ZOOM等活用し、行っていければと考えている。また保護者の方が立ち上げた会についてお知らせを受けた際には、案内紙を事業所内に掲示できるようにしている。	コロナ感染拡大防止により実施を中止した。コロナ禍であり、開催を控えている。一感染リスクの高い子どもが多く、感染状況を見ながら、必要に応じて開始していきたい。
	33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		苦情とはどのようなものか等迅速に対応できるように、外部の苦情解決(初、中、上級)の研修を職員が積極的に毎年受講できるようにしている。また事業所内にも苦情を受けた際のフローチャートを作成して流れがわかるようにしている。	苦情対応の体制の整備を職員全員が理解し、受けた苦情について迅速かつ適切に対応できるよう努めていきたい。
	34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		個々の保護者様とLINE等利用し、情報の共有を行っている。また長期休暇の活動状況は写真を添付し、情報共有している。長期休暇前には、長期休暇期間の活動予定表を紙を用いて発信している。また週末の課外活動も必要に応じて事前に、LINEなど使用し概要等発信している。	保護者の方の要望など伺いながら、会報や連絡体制等の情報が十分であるか検討していきたい。
	35 個人情報に十分注意しているか	○		書面での個人情報は施錠できる所に保管している。また職員には採用時に必ず個人情報保護に関する誓約書に署名している。	個人情報保護についての外部の研修を定期的に受け、情報流出について常に意識し、可能性を減らしているよう各職員が心がけていけるようにしていく。
36 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		その日の子どもの状態や、それぞれの子ども個性に合わせて伝え方を考えている。また伝えた後どのように理解したか、できる限りフォローアップを行っている。	利用日の変更など重要なことは、子ども、保護者の方との意思の疎通の再確認を心がけていきたい。	
37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わった事業運営を図っているか	○		昨年度に引き続き今年度の夏休み期間中も、地域の技術のある方に木工作りを教えていただけるとのこととなった。避難訓練でも近所の方に声掛けし少数であったが参加いただけた。	コロナ禍により現在難しい。コロナ禍の為、外部との交流は控えている。一今後開設予定の子ども食堂を通じて、地域の方と同じ法人内の放課後等デイサービスの事業所の子ども連との交流のきっかけになるようになればと考えている。	

チェック項目		はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の 対応	38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○			開所時からそれぞれマニュアルを策定している。保護者様には契約やモニタリングなどで来所がある際にできる限り報告を行っている。	保護者様には、利用開始前に必ず見てもらっている。保護者会や担が開催できておらず、定期的な周知は難しい。 →事業所や保護者アンケートの結果や防災訓練等を職員、子どもと実施する中で、見直しも含めて、職員ご家族ともにマニュアルの周知に努めていきたい。
	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			ガイドラインに基づき、非常災害訓練を年2回行っている。そのうち年1回は明和分遣隊や明和交番の協力を得て、児童・職員の全体で取り組んでいる。	訓練研修後に振り返りを行い、日頃から非常災害発生に備えて緊急時に活かせるよう意識づけができるよう行っていくたい。
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			委員会を設立し、マニュアルの見直しなどについて話し合いを行った。また委員会問わず、職員全員が交互に外部開催の研修に参加し、虐待防止について理解を深めている。	外部の研修に常勤職員を中心に参加していき、虐待防止に対する理解を深めていき、職員全員が意識をもって支援ができるよう心がけ、必要時対応できるよう努めていきたい。
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○			身体拘束マニュアルに沿って職員ミーティングや委員会が必要について話し合い、保護者に書面と合わせて説明し同意を得ている。その後も定期的にその拘束の必要性の有無について話し合いを行っている。	法人内の身体拘束委員会や虐待防止委員会を中心に、毎年受けている外部の研修を受講し、身体拘束の予防等について理解を深めていきたい。
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			現在、食物アレルギーの子どもはいないが、契約時や見学面談時に必ず保護者に確認のため、アレルギーの有無について記載していただいている。	今後も気を付けて確認していきたい。
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			日々、毎日の記録ノートに記載し職員が情報共有ができるようにしている。	共有はしているが、記録物が不十分。 事例があった際には、スタッフ間で話し合い対策を考えているが、記録物がやや不十分。 →事例集としてまとめておらず今後作成を考えていきたい。